

広島の力

丹精堂
株式会社

シリーズ[®]

受注生産から脱却、 オリジナルブランド確立へ

信頼できる良質な筆づくりにこだわり、
ブランド力を高めてきた丹精堂。
その化粧筆の魅力に迫ります。



筆の町として知られる熊野町。ここに規模は小さいながらも良質の筆づくりで全国にファンを持つ丹精堂があります。まずはその沿革を社長の山田耕一さんに聞きました。「祖父が尚恬斎の筆匠名で始めた戦前から数えると、創業85年になります。1970（昭和45）年、父が丹精堂として会社を設立し、その翌年には天皇皇后両陛下の御前作業の栄を賜り、筆を献上しています」。

山田さんは、祖父がよく言つて聞いた「売る人になりなさい」という言葉を印象深く覚えています。「職人よりも経営者になれ」という教えでしょうね。父も祖父から筆づくりは教わっていないはずですが、そばで見ているとやはり覚えるものです。天才肌の父は、経営者としてはもちろん筆職人としても優秀でした」。

書道の筆だけでなく、同社では時代と共に化粧筆づくりも手がけるようになります。日本経済の発展が目覚ましかった80年代は、食事する間も惜しむほどの忙しさだったといいます。

大きな転機が訪れるのは20年ほど前のこと。安い海外製品に押されて有名化粧品ブランドとの大きな取引が終わり、売上が劇的に落ちてしまします。そこで筆づくりとあらため向き合った山田さんは、



「付加価値をつけたものづくりを模索して、こんな筆も作りましたよ」と、軸が金やプラチナ、漆塗りやガラス探してコラボレーションしたという高級品で、できた、デザインもユニークな筆の数々を見せてくれました。日本中でその道の職人を探して、さすがに高く売れませんでしたが」と笑います。「でも良いものを作つていたら『やっぱりいいね』と言つてくださる方はいるんですね。だから穂先はもちろん軸も金具もオーダージャパンで作るのは、うちの特徴です。また、毛や木は乾くと変形するため何年か寝かせて使いますし、塗料も安全なものにこだわっています。そして仕上げは紫外線殺菌をして販売します。いかに安く作るではなく、いかに信頼されるものを作るかが大事です。本当にいいものを最後まで作り続けたいと思っています」。



「信用を失わないように、ちゃんとものを売りたい」と丹精堂社長の山田耕一さん

高級な毛を惜しみなく。 男性用ブラシも人気



左の2本が洗顔用、右の2本が男性用頭皮ケアブラシ

筆づくりの現場を見学しました。筆に使われるイタチ、ヤギ、リスなど動物の毛は、熊野筆が世界的に脚光を浴びるようになる以前に仕入れたもので、山田さんの先見の明が光るこれらも丹精堂の財産です。選別された毛は、脂肪分や汚れを取り除く「毛揉み」を経て、職人の手によって毛の質が整えられています。逆毛などの悪い毛は細かく抜き取り、良い毛だけを徹底的に選り抜きます。

その後、穂先は女性たちによつて丁寧に仕上げられていくと、完成も間近。金具にさしてプレスし、接着剤で固めるなどして軸をつけてます。軸にはネームを入れるなど一本ずつのオーダーメイドも可能です。最近は濃手漉き透かし和紙を使ったパッケージも好评で、プレゼント用などに喜ばれています。

「ヤギの毛の中でも最高級のものを細光峰」と呼びます。このチークブラシがそうですよ」と妻の恵子さんに教わり、それに少しだけ触れさせてもらいました。その極上の肌触りはまさに夢心地でした。

別の工房に足を運ぶと、さまざまなか粧筆がずらりと並び、手に取つて自由に試せるようになつていきました。その中には「dans eido」のネーミングで10年前に発売され

た男性用ブラシもあります。皮膚科の医師の指導により頭皮ケアブラシとして開発されたもので、渦巻き状に段差をつけて整えられた穂先は毛穴に入りやすく、汚れをきれいに取り除いてくれると伺い、興味津々です。

「これほどたっぷり毛を使つたブラシは、ちょっととほかにはないでしょ。頭のツボを刺激するだけでもマッサージ効果がありますよ」。若い職人さんに勧められ、持ち重りのするブラシでトントンと試してみると、確かに気持ちがいい！皮膚を傷つけない優しい感触なのに、ヤギや馬の毛が惜しみなく使われていてしっかりした刺激です。「旦那さんやお父さんへの贈り物にも人気です」の言葉に納得しました。

近年、丹精堂ではメイクを学ぶ専門学校などにも営業活動に出向いています。「若いうちから良い道具に触れておくことは、将来スタイリストなどプロとして活躍する上で、とても大事なことだと思います」と恵子さんは言葉に力をこめます。その筆づくりを支えているのは、黙々と作業に勤しむこの道40年以上のキャリアの職人さん、手際よく作業を進める女性スタッフの皆さんなど、仕事と誠実に向き合う方たちです。妥協を許さず、すべてが地元で作られる丹精堂の筆は、まさに上質そのもの。それが見事なチームワークによって生まれ出されていることに、大きな感動を覚えました。